



定数に満たず流会 駿台法学会学生大会

十日一〇号館
一五〇番教室で
開催される予定
だった二部駿
台法学会定例学
生大会は、定
数に満たず流会
した。

頭初から波乱
含みのこの大会
は、一時間を経過
しても開かれる
見込みはなく、
二時間を経過した八時頃、突然、
田上委員長代行(事務長)が、
「代議員が定数に満たないため流
会します」と宣言し、足早やに壇
上を降り、退場しようとした。会
場は騒然となり、数人がかけつけ
て退場を阻止。

反帝学評を中心とする代議員は
詳細な報告を求めるとともに、代
議員が全員で三二名なのに二九枚

の代議員証しかなかった。資格審
査委員が大会は続行していると言
っている。執行部はどこにいるの
か。資格審査委員は執行委員であ
るが執行委員以外の人間が入って
いる。本人が知らないのに執行委
員となっている者がいる。委員長
はどうしたのか。などの諸点を次
々に追及。しばらくの間、双方の
やりとりが続いた。

以上のことから、反帝学評は五
項目にわたる自己批判を要求し
たが、田上委員長代行は六八年
当時の執行委員(池田現執行部は
六八年当時に成立したもの)が現
在機能していないことは認める「
運動の不充分性は認める」と答
弁。その他の自己批判には応じな
いという態度をとり続けた。

十時近く、反帝学評を中心とす
る代議員有志はリコール決議をと
り、代議員十四名のうち、賛成八
名、反対六名となった。これらは
正式な決定事項ではないが、今後
これをもち、現執行部の追及が
なされていくものとみられてい
る。

なお、今大会には二年五組から
対案書が出されていた。また、執
行部は大会を十月十日から二十日
の間に開くことを確約した。